

EMT981 再生系の再構成(21)

－ハイドンを聴く(12)－

1. はじめに

前報(3)において EMT981 から Truphase を経て 300B アンプまでのバランス伝送が実現した機会に、手持ちの CD を聴き直していくことにしました。今回も、しばらく聴いていないハイドンの作品を聴いていきます。

2. EMT981 の試聴方法

EMT981 の再生では、前報(7)と同様に前報(2)の再生ルートとします。

EMT981(*)→TruPhase→.300B

* : GPS-777 より CCD-6 経由でクロック入力

古い録音で定位などに違和感が感じられるときは TruPhase で位相を反転します。
再生する CD はハイドンの交響曲です。

PILZ 449269-2

ハイドン 交響曲第 48 番<マリア・テレジア>

交響曲第 59 番<火事>

交響曲第 92 番<オクスフォード>

ヘンリー・アドルフ指揮フィルハーモニア・スラヴォニカ

FIC ANC-100

ハイドン 交響曲第 94 番<驚愕>

交響曲第 96 番<奇跡>

交響曲第 100 番<軍隊>

ピエール・モントウ指揮ウイーンフィル

カール・ミュンヒンガー指揮ウイーンフィル

3. EMT981 の試聴結果

PILZ 449269-2 の響曲第 48 番<マリア・テレジア>、交響曲第 59 番<火事>、交響曲第 92 番<オクスフォード>は、1993 年の録音で、いずれも厚みのある音での躍動的な演奏です。

FIC ANC-100 の交響曲第 94 番<驚愕>はピエール・モントウ指揮、交響曲第 96 番<奇跡>と交響曲第 100 番<軍隊>はカール・ミュンヒンガー指揮でウイーンフィルの演奏で 1959 年の録音です。録音が古く、音の緻密さは今ひとつですが、いずれもウイーンフィルらしく、闊達で生き生きとした演奏です。録音が古いためか、TruPhase で位相反転させた方が音の焦点があってくるようです。

4. まとめ

クロック入力した EMT981 からのバランス接続の効果で、古い録音盤も含めてデジタル臭さを感じさせない生き生きとした躍動的な演奏が楽しめます。

以上